



佐 潟 通 信

2016年9月

57号

◇ 佐潟のようす 夏～秋へ

佐潟の夏の主役、ハスの花の盛りは昨年より極端に少ないようです。ハスの勢力がなかったことが主因と考えますが、「天候の影響」や「ハスの長期的周期」説などもありよく分かりません。



◇ 佐潟のようすⅡ

・・・佐潟は、ラムサール条約登録20周年・・・

ラムサール条約は12条文から成り立っています。特に第1～5条が重要です。今回はこれらを紹介します。

第1条：湿地とは・・・水深6m以内の海域や人工的な池沼も含めた様々な水域・水辺などです。淡水・汽水・鹹水（かんすい）であるかを問わず、水の流れの有無も関係なく、湿地に含まれます。

第2条：湿地の登録・・・世界の登録湿地のリスト・ラムサール条約公式データベースに登録されます。

第3条：ワイズユース・・・ラムサール条約の精神で「賢明な利用」を提唱しています。

第4条：保全を行う・・・自然保護区を設けることで湿地や水鳥の保全を促進します。

第5条：国際協力・・・湿地が2国間以上に渡っている場合や国境を超えて渡る水鳥を守るために、お互いに話し合っ

◇ 佐潟のようすⅢ

・・・佐潟の植物紹介・・・



ハンゲショウ（半夏生・半化粧）は半夏生（7月上旬）の頃に開花することからこのような名前になったとも言われています。開花になると、葉が上部より半分ほど白く変色するため、「半化粧」・「片白草（カタシログサ）」とも呼ばれます。低湿地に生える高さ60～100cmの多年草です。開花は6～8月頃で花穂にたくさんの白い花をつけ、全体に特別のにおいがあります。佐潟では主に生態園内で育成しています。現在、新潟県の絶滅危惧種になっています。

◇ 佐潟のようすⅣ 佐潟での夏のたのしい各種イベント

夏休みの子供たちは元気よく湿地センター主催のそれぞれのイベントに参加し、トンボを追いかけてたりクワガタを自慢したり、親子で昆虫を図鑑で調べたりして楽しんで頂きました。

☆ぼくとわたしの夏休み

(7月24日)

初めての上潟(うわかた)散歩で講師の大学生と一緒に佐潟にいる昆虫などの生きものを観察し、センターで名前や特徴を学習し楽しんで頂きました。



☆佐潟散歩発展観察会



(8月7日)

鳥や魚、昆虫、植物などを観察して小さい頃の体験が大きな宝となるように佐潟の自然の魅力を伝えるお手伝いをしました。ザリガニやカメが触れない子供たち、昆虫を怖がる子供も終わってみてニコニコ顔でした。

☆さかたん(第二回目(佐潟での子ども向け自然体験))

(8月21日)

5月にみんなで田植えをした稲の生育状況を確認後、田んぼにいるオタマジャクシや小魚を見つけました。また佐潟にすむ昆虫や水辺の生き物を観察しニコニコ顔でした。



◇ 佐潟のようすⅤ (地域のイベント)

佐潟まつり

8月27日 佐潟まつり・・・佐潟万燈籠・・・開催

佐潟観光協会の主催で佐潟を会場に、にぎやかに開催されました。こども神輿に始まり、園児ショー、赤塚神楽舞、マジックショー、など地元色豊かなステージと飲食屋台などで会場が盛り上がりました。夜は合わせて300個の湖面の「万灯籠」が情緒豊かにてらされ芝生広場でお祝い花火やスターマインが打上られました。



渦めぐり スタンプラリー実施中・・・渦めぐりスタンプラリーに挑戦し、豊かな自然を満喫・・・

新潟市内には16の渦がありますが新潟市では13の渦を紹介し、癒しの活動の場となっている渦の魅力を体感していただき、憩いや活動の場となっている渦の魅力を体感していただきます。・・・

佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内

【開館時間】9:00~16:30(冬期間11月から2月の土・日は7:00から)
【休館日】月曜日(祝休日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月3日)



ラムサール条約湿地

編集 佐潟水鳥・湿地センター

〒950-2261 新潟市西区赤塚5404番地1

電話025(264)3050 / FAX 025(264)3051

E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市西区役所地域課文化・スポーツ係

〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号

電話025(264)7193

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にご連絡ください。